

施設整備における食器・食缶等について

施設整備「食器・食缶等検討班」の検討の報告により、次のとおり取りまとめましたので、報告いたします。

(1) 食器

食器の選定にあたり、3社の食器の検討を行った。食器のサイズ・重量・強度・使用感・供給機式洗浄機との相性等を考慮し検討した結果、歪みが少なく、軽い大蔵商事製食器を選択し、以下のとおりの4種類を導入したい。

大蔵商事 株式会社 (クリストバライト)									
種類	材質	型番	口径 mm	高さ mm	容量 cc	重量 g	定価	20枚高mm	40枚高mm
飯 椀	強化磁器	20132	129	53	360	151	770	205	—
汁 椀	強化磁器	20131	136	60	460	185	880	212	—
小ボール	強化磁器	20551	138	34	260	143	640	—	268
深 皿	強化磁器	20841	180	38	500	245	990	※	272

※深皿は20枚で1かごとする

(2) 食缶等

食缶用立体式消毒保管庫を導入予定であるため、汁物食缶については現行と同規格ものの使用が可能と考える。現行の献立の配食量を考慮（40人学級・中学校量を最大）し、現行大フライ（10L）、小フライ（7L）、ジャム缶（4L）、米飯用食缶（14L）は確保したい。

衛生面・作業性・安全性（児童・生徒）を考慮すると、クリップ・パッキンがなく、安全に取り扱うことができるステンレス製であり、現行の献立を基準に対応できる容量を確保することを念頭に選定を進めた。小フライを二重保温食缶（7L）から（10L）に変更し、オオイ金属製の二重角型食缶を以下のとおり導入したい。

	規格	寸法	メーカー
汁物食缶	SW-14	315×260×300	日本調理機株式会社
大フライ (主菜：揚焼煮)	マイルドボックスS SMB-10	365×316×195	オオイ金属株式会社
小フライ (副菜)	マイルドボックス 005	363×330×126	オオイ金属株式会社

ジャム缶 (副々菜)	マイルドボックスS SMB-4	308×219×139	オオイ金属株式会社
米飯容器	マイルドボックスS SMB-14-1	365×316×225	オオイ金属株式会社

(3) カトラリー (はし・スプーン・フォーク)

現行のもので特に問題ないと考え、現行使用しているものと同規格のものを使用する。ただし、現在のように献立立案時にカトラリー調整する必要がないように、提供食数分のはし・スプーンをそろえる必要がある。クラス(40人分)ごとに専用かごを使用し、収納する。

なお、フォークについては、献立内容(調理場の機器等)によっては本数をそろえる必要があるため、準備予定数については基本設計時に提示する。

(4) 配食器具

学校別、クラス毎に管理する必要があるため、623クラス分(平成26年度現在)のセットを用意する。

1クラス分のセット数・種類は、おたま・卵杓(2本)・ tong (4本)・しゃもじ(小学校1本・中学校2本)・そば玉・レードルの6種類。

小学校10個・中学校11個で1クラス分とする。専用かごを使用し、収納する。

(5) コンテナ・収納容器

選定した大フライ・小フライ・ジャム缶と現行の汁物食缶を1クラス分とし、コンテナ(現行サイズのもの)に4クラス収納を考え、基本設計の中で進めている。

米飯食缶は、専用コンテナで配送となるため、1コンテナあたりの収納数を基本設計の段階(H27.2現在)で12台と想定している。食器コンテナは、最大3クラスの食器セット(4食器+トレイ)収納を考え、基本設計の中で進めている。

米飯用食缶については、学校によってクラス数に差があるために、クラス数に合わせたコンテナ数が必要である。学校名が分かるような食札等工夫が必要である。

カトラリー収納容器は、食器と同様のコンテナで保管・配送する。はし・スプーン・フォークは食器用コンテナの中に3クラス分ずつ入れること(食器用コンテナには最大3クラス分の食器セットを配送)とし、業者からコンテナに入るような、はし・スプーン・フォークを入れるケースを基本設計の中で提案してもらう。

配食器具収納容器については、食器・食缶用コンテナに入れるスペースがないため、食缶用コンテナの上部に最大4クラスセットできるよう、基本設計の中で提案をしてもらう。

(6) 配送時間

給食センターから距離のある学校は、片道40分程度かかる見込みであり、2時間以内の喫食を遵守するために、配送・回収計画のコース分けや配送順を、基本計画の配送・回収計画を基にさらに様々な状況でのリスク回避等を精査し、基本・実施設計において配送・回収計画を策定する。